

平成21年12月15日

発行 青梅市文化財保護指導員連絡協議会

青梅市郷土博物館（青梅市駒木町 1-684 Tel.0428-23-6859）

高源寺に芭蕉の句碑が！

句碑は市内二俣尾五丁目（旧二俣尾村字平溝）曹洞宗天徳山高源寺の境内、本堂に向かって左手の山門脇にあります。高さ 137cm、幅 74 cm、奥行き 22 cm、素材は付近を流れる平溝川などによく見られるチャート（珪岩）の自然石です。

この句碑は平溝の人たちにとって、高源寺に参詣するたびに目にしてきた石碑でしたが、風化により文字が判読しづらく、何の碑か、いつ頃誰が建てたものか、わからないまま長い年月が経過しました。

石に刻まれた文字は「古寺迺桃耳米ふ無於とこ可那 はせ越」と読めます。「はせ越」とは江戸時代前期の俳人、松尾芭蕉の俳号にあたります。

はたしてこの句が芭蕉の句であるのか、永年の疑問に、高源寺の総代である原島友幸さんが、青梅市文化財保護審議会委員小澤弘子先生に調査を依頼し、その結果、今年7月、この句が芭蕉の句に間違いないことが判明しました。

松尾芭蕉は正保元年（1644年）伊賀上野（現在の三重県）に生まれ、19歳頃、藤堂良忠に仕えました。良忠が俳人であったため、芭蕉はその影響を受け俳諧に励んだと伝えられています。23歳で京都に出て俳諧・古典・禅などを学びました。29歳の時に江戸へ下向し、元禄七年（1694年）51歳で世を去るまでに数々の名句を詠み、現在では「奥の細道」「笈の小文」などで知られている日本を代表する俳人です。

「古寺迺桃耳米ふ無於とこ可那 はせ越」は現代の表記では「古寺の桃に米ふむおとこかな 芭蕉」となります。

「古寺の庭に来て見ると、桃の花が美しく咲いている。ふと見ると納屋で男がじんがらを踏んでいる。美しい桃を愛でることもせず、一心に米を搗ういでいる男は何を考えているのか。この句の作者は単調なじんがらの音を聞きながら、華やかではあるが、どこか鄙ひなびた桃の花を飽かず眺めている」というのが小澤先生のこの句に対する解釈です。「じんがら」は「地唐臼」の西多摩郡辺りの方言で「ふみがら・人がら」ともいい、踏み臼を踏んで米を精白すること、または踏む人のことです。また「桃」は江戸時代、二俣尾村の特産物であり、「玉川日記」（川路聖謨 1801～1868 著）に「この辺桃を多くつくる。山々谷々にみゆるけしきよし。二又尾というところは万年橋より半道なるが、ここにいたれば一、二里が間、目のわたる所みな桃園なりといふ・・・」と記されています。

この句は現在までの調査で、高浜虚子の歳時記「花鳥風咏」、荻原井泉水著「芭蕉名句」、水原秋桜子著「俳句歳時記・植物春」、正岡子規著「俳句大要」に芭蕉の句として載っていることがわかりました。

以上の調査結果をまとめて、小澤先生は「高源寺の句碑は芭蕉の句にまちがいない。しかし、何時頃誰が建てたのかはわからない。左側面の文字が判読できていない。年代は推測であるが、芭蕉の百年忌の寛政五年（1794年）か芭蕉百五十年忌の天保十四年（1843年）ではなかったか。建立者は高源寺の住職であろうと考えられる。全国の芭蕉句碑は忌年の建立が圧倒的である。中でも百回忌と百五十回忌が最も多い。」と述べられています。

全国にはこれまで確認されているだけで2441基の芭蕉句碑がありますが、建立年代の判明しているものは1727基、判明率は70パーセントです。現在まで青梅市内には本町金刀比羅神社、滝ノ上町常保寺、谷野真浄寺、天ヶ瀬町金剛寺、梅郷吉野街道沿いの5ヶ所に芭蕉の句碑と塚があることが確認されています。句碑に刻まれている俳句は誰でも知っている句が多いのですが、今回の高源寺の句碑に刻まれた句はたいへん珍しく貴重です。

高源寺の責任役員、世話人の皆さんは、昨年の秋からの本格的な調査の結果を期待をもって待ち望んでいました。その1人である須崎光男さんは「今までの調査では本当に芭蕉の句なのか確認することができなかった。今回小澤先生のお力で永年の疑問が解けて大変嬉しい。ぜひ多くの人に見に来てほしい。」と喜びを語っておられます。



芭蕉句碑と原島さん・須崎さん

「青梅市史」によると、高源寺の創建は元禄以前とあり、明和五年銘の梵鐘（非公開）、明和三年の写経供養塔などの貴重な寺宝があります。歴史の古さを感じさせる山門を持ち、「桃に米ふむ…」の情景が目浮かぶような、静かな佇まいの寺です。高源寺へはJR青梅線軍畑駅下車徒歩約30分です。

（文責 小島 みどり）

市内の芭蕉の句碑・塚一覧表(高源寺の芭蕉句碑除く)

場所	内容
滝ノ上町 1316 常保寺境内	正風宗子 芭蕉霊祠
本町 220 金刀比羅神社境内	行く春に和歌の浦にて追付たり はせを
天ヶ瀬町 1032 金剛寺境内	梅か香にのっと日の出る山路かな はせを
谷野 193 真浄寺境内	芭蕉翁霊塚
梅郷 4-697 吉野街道沿	梅か香にのっと日の出る山路哉 はせを翁